

# 令和4年度 東京都立千歳丘高等学校 学校運営連絡協議会実施報告書

## 1 組織

- (1) 東京都立千歳丘高等学校学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成  
教務・総務主任＝事務局長、教務・総務部員、副校長、経営企画室職員 計4名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画室長、教務・総務部主任、生活指導主任・保健部主任、  
進路指導主任、養護教諭 計8名
- (4) 協議委員の構成  
近隣中学校長、近隣町会会長、近隣住民、有識者、同窓会会長、同窓会相談役、  
本校PTA会長、前PTA会長、地元警察署員 計9名

## 2 令和2年年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、会場、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和4年6月23日(木) 16:00～17:00  
本校会議室。内部委員7名、協議委員7名出席。  
学校経営報告及び学校経営計画、入学選抜状況報告、募集対策について、生活指導について、  
保健指導及び保健室について、進路指導の計画及び進路状況、運営コストについて、  
本校の現状と課題について協議。
  - 第2回 令和4年11月29日(火) 15:30～16:30  
本校会議室。内部委員7名、協議委員7名出席。  
募集対策報告、部活動加入状況報告及び保健室利用状況報告、現在までの主な進路指導報告、  
本校の現状について報告。
  - 第3回 令和5年3月2日(木) 16:00～17:00  
内部委員7名とは会議室で情報共有、協議委員9名には書面送付。  
今年度の学校運営報告と来年度の課題の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和4年11月29日(火) 15:00～15:30  
本校会議室、内部委員3名協議、評価委員は欠席。  
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討。
  - 第2回 令和5年3月2日(木) 15:00～15:30  
本校会議室、内部委員3名による結果分析、評価委員は欠席。  
学校運営連絡協議会を経た学校評価の詳細の検討と報告書原案の作成。

## 3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点
  - ・学校への理解・生徒の実態・学校の実践に対する評価の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
  - ・12月 全校生徒 730名 ・12月 保護者全員 730名 ・12月 教職員 47名
  - 回収率 生徒 599名 (82.1%、昨年 83.9%) 保護者 427名 (58.5%、昨年 62.9%)
  - 教職員 47名 (100%、昨年 84.4%) 地域 21名 (昨年 5名)
- (3) 主な評価項目
  - ・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動、健康安全、施設設備、その他

#### (4) 評価結果の概要

- ・「学校運営」については、都立高校学校経営指標に基づき、学校が行うべき 22 項目の取組に取り組んできた。その結果、「学校生活の充実度に対する生徒の肯定的な回答」は 82.7%であり、昨年度 79.7%に比べて 3.0%増加した。
- ・「学習指導」については、「授業改善に対する生徒の肯定的な回答」は、76.9%であり、昨年 77.3%から 0.4%減少している。教員の 93.0% (昨年度 93.0%) が授業改善をしていると回答しているため、教員と生徒との間の認識のずれは 16.1% (昨年度 13.7%) となっている。依然として認識のずれがあり、課題である。
- ・「進路指導」について生徒の肯定的な回答は、76.54% (昨年度 74.5%) であり、2.1%増加した。「進路相談」についての生徒の肯定的な回答は 80.8% (昨年度 75.3%) で、教員の肯定的な回答が 92.0% (昨年度 76.0%) であり、生徒との間に認識のずれが 11.2%となり、ずれが広がっている。
- ・「生活指導」については、生徒の肯定的な回答は 76.8%で、昨年度 76.5%を 0.3%上回った。現在の生活指導体制は、生活指導部が中心となっている。毎朝の校門指導は、特に功を奏した。更に学校が一枚岩となって生活指導を徹底させて規範意識を育てていきたい。
- ・「特別活動」については、文化祭・体育祭ともに今年度も感染症対策をしたうえで規模を縮小し、工夫しながらの実施となった。文化祭に満足した生徒は 84.6% (昨年度 69.7%)、体育祭に満足した生徒は 84.1% (昨年度 77.8%) と大幅に増加している。部活動に積極的に参加し、その活動に満足している生徒は、53.4% (昨年度 50.6%) であり、2.8%増加した。

#### (5) 評価結果の考察 (学校及び校長への意見・提言内容)

- ・生活指導及び進路指導面における組織的な取り組みの効果が現れてきているが、さらに生徒の目を学校に向けさせ、充実した学校生活を送らせ、生徒の希望進路 100%の実現をめざす。
- ・教員の 93.0% (昨年度 91.0%) が授業改善をしていると回答しているため、教員と生徒との間の認識のずれは、16.1% (昨年度 13.7%) となっている。依然として生徒との間に認識のずれがある。この現状を真摯に受け止め、生徒の興味・関心・意欲を高める工夫に努めるなど、引き続き授業改善に組織的に取り組み、教員の授業力を向上させ、授業の充実を図る。
- ・3年間の進路指導について具体的に目に見える形で生徒・保護者に示すと同時に、進路相談体制の充実をさらに図る。
- ・次年度は、生活指導部が推進役となり、全校体制で一枚岩となって、遅刻・頭髪・服装等、基本的な生活習慣の確立に向けた生活指導の更なる徹底を図る。

### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題 (学校評価を含む)

#### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果と課題

- ・新校舎となり設備が充実し、地域環境も良くなり、これからは、是非学力向上に力を入れて欲しい。
- ・登校時、生徒が互いに元気よく、明るく挨拶をしあっていて、とても好感が持てる。
- ・「人間と社会」の体験活動への理解と協力が得られ、地域行事への参加等、地域連携が継続的に実施されている。
- ・登下校時のマナーについて気になるので、マナー教育の徹底をお願いしたいという意見が多い。
- ・生徒たちの行儀が大変良くなったと感じる。登校時等の先生方の熱心な指導ぶりに敬服している。  
新校舎になって、教育環境がますます充実することを期待する。

#### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった今後の取組み

- ・教育目標「高志・自律・信頼」を浸透させ、いかに実践していくか。
- ・基礎学力を身につけ、生徒一人一人の希望進路実現をどう実現させていくか。
- ・生徒にとって楽しい学校生活をいかにして送らせるか。
- ・授業規律の確立や校内美化、生活指導等についてどう組織的に取り組んでいくか。
- ・同窓会からの支援を受けた予備校講師による土曜講習を継続させ、進学実績等の成果をどのように出していくか。
- ・マナー教育の徹底をどう進めていくか。

## 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

### (1) 学校運営

- ・保護者へ向けての連絡体制の確立を図り、来校者数を増やすなど、教育活動への関心を高める。
- ・近隣中学校への出前授業や部活動の合同練習等により、中高連携を強化する。
- ・教科「人間と社会」の奉仕体験活動と生徒会のボランティア活動や2学年の防災訓練を通して、地域行事への参加や地域連携等をさらに充実させる。
- ・次年度も、1 学年生徒全員が、多数の連携先で行う奉仕体験活動を予定している。生徒の活動を通して、さらに、地域から信頼される学校にしていく。
- ・学校評価の結果を生徒、保護者、地域にどう発信していくのか検討していく必要がある。

### (2) 学習指導

- ・一人一台端末を効果的に活用するために、授業力向上研修やICT 機器活用研究等を通じて、興味・関心・意欲を引き出す授業を実践する。
- ・同窓会の支援を受けた土曜講習や放課後補習等組織的な補習体制の確立に取り組み、生徒の学習意欲を喚起し、学力向上を目指す。

### (3) 進路指導

- ・1年次からのキャリア教育計画を生徒・保護者に理解させ、全教員が協働して進路指導の充実を図る。特に、進路室を活用した進路相談体制の充実をさらに図り、生徒の進路意識を醸成する。
- ・Teams を活用し、キャリア教育をより充実させる。

### (4) 生活指導

- ・更に生活指導を徹底させ、生徒の規範意識を育て、生活規律及び授業規律の確立、人権尊重の教育、心の教育の充実を図る。

### (5) 特別活動

- ・文化祭・体育祭等の学校行事を通じて、生徒に成就感・達成感を持たせる。
- ・生徒に働きかけ、更なる部活動の活性化を図り、部活動加入率を上げる。

### (6) 健康・安全

- ・教育相談体制をさらに充実させ、生徒の心のケアの充実を図る。

## 6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

### (1) 協議委員数9名

### (2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
6	3					

## 7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

特になし

## 8 その他

- ・地域でのボランティア活動・清掃活動・防災訓練が、地域でも知られるようになってきている。
- ・新校舎となり、地域から施設開放の要望が多くなった。今後は地域との連携を強化し、地域貢献活動（防災活動を含む）を発展させる。
- ・学校の活動をもっと情報発信していくことが必要である。